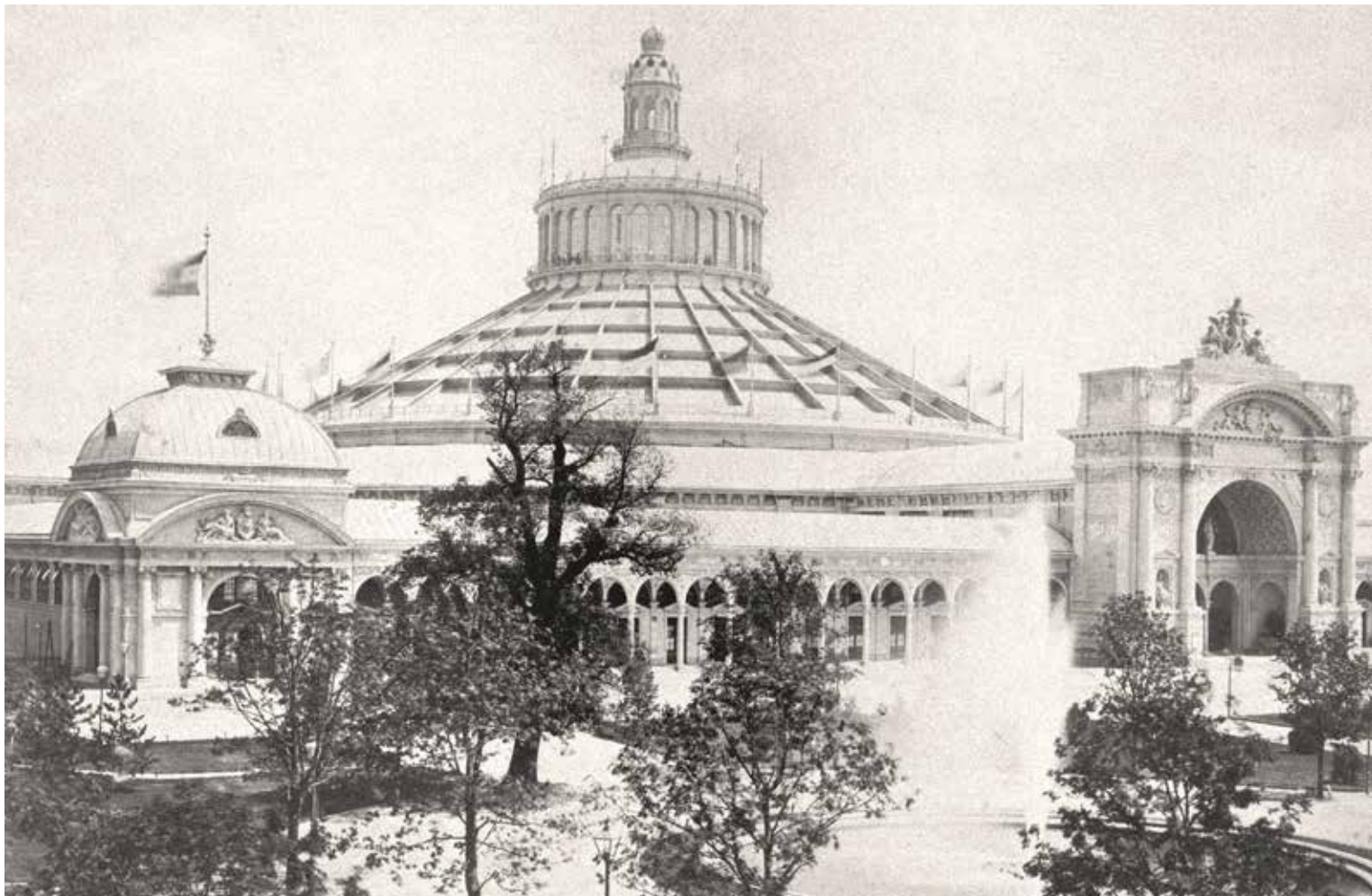




ウィーン万国博覧会 会場写真（部分）
東京国立博物館所蔵
Image: TNM Image Archives

国立アイヌ民族博物館 第10回特別展示 開館5周年記念

ウィーン万国博覧会と アイヌ・コレクション

AINU COLLECTION AT THE VIENNA WORLD EXPOSITION OF 1873



『文部省博物館博覧会写真帖』 北海道大学附属図書館蔵

前期

2025

7.5 SAT. - 8.31 SUN.

後期

2025

9.13 SAT. - 11.16 SUN.

休館日：月曜日（祝日または休日の場合は翌日以降の平日）
※8/12（火）・9/16（火）・9/22（月）は開館、9/24（水）は休館

【主催】国立アイヌ民族博物館 【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会、ドイツ大使館、オーストリア大使館
【特別協力】東京国立博物館 【協力】ベルリン国立博物館群民族学博物館、奈良国立博物館、石川県立九谷焼美術館、石川県立歴史博物館、北海道立文書館、あま市七宝焼アートビレッジ、江別市教育委員会、市立函館博物館、苫小牧市美術館、福岡市博物館、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、一般財団法人西陣織物館、渋谷史料館、北海道大学附属図書館、有田ポーセリンパーク、全日本空輸株式会社、中西出版株式会社、ハウステンボス美術館、関口忠相（日本シーボルト協会 会長）

国立アイヌ民族博物館
特別展示室 北海道白老郡白老町若草町2-3-1



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

高さ約2メートル、
圧巻の存在感を放つ大花瓶

染付蒔絵富士山御所車大花瓶
有田ポーセリンパーク蔵 通期展示

青の濃淡が生む、写実の極み



染付花籠紋大皿
ハウステンボス美術館蔵 通期展示



日本館内部の様子
東京国立博物館所蔵
Image: TNM Image Archives

展示場で人気だった
名古屋城の金の鯨



頭巾/ Staatliche Museen zu Berlin,
Ethnologisches Museum (I A 4750)
ベルリン国立博物館群民族学博物館蔵
通期展示

ウィーン万博に
出品された
アイヌ・コレクション



小物入れ/ Staatliche Museen zu Berlin,
Ethnologisches Museum (I A 4768)
ベルリン国立博物館群民族学博物館蔵
通期展示



鉢巻き/ Staatliche Museen zu Berlin,
Ethnologisches Museum (I A 4751)
ベルリン国立博物館群民族学博物館蔵
通期展示

ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション

明治政府が国の威信をかけて初めて公式に参加した1873年のウィーン万国博覧会。日本の精巧な美術工芸品を中心に地域の物産を出品し、国際舞台に躍り出ていきます。その中で、アイヌ・コレクションは北海道の物産として開拓使や博覧会事務局により収集・選定・出品されました。本展では、約150年ぶりに北海道に戻ってくるドイツ・ベルリンの海外コレクションを展示し、日本にとって近代化と国際化の象徴であるウィーン万博を起点としたアイヌ・コレクションの形成とその時代背景を紹介します。

ウィーン万国博覧会の系譜

—日本の博覧会と博物館のはじまり—

ウィーン万国博覧会参加の目的に、国内における学芸の進歩のための日本初の博物館構想もありました。そこには、江戸時代に仲間内で品物を持ち寄り品評する「物産会」から、国家が「モノを集める」物産会(博覧会)へという系譜が見られます。そして、後の恒久的な展示施設としての博物館へとつながっていきます。

Chapter 2: The Genealogy of the Vienna World Exposition
— The Origins of Japanese Expositions and Museums
One of the objectives behind Japan's participation in the Vienna Exposition was the conceptualization of Japan's first museum, aimed at the advancement of academic, artistic, and scientific knowledge within the country. This initiative marked a genealogical progression from the Edo-period product fairs (bussankai), where community members gathered informally to exhibit and evaluate goods, to state-sponsored expositions (hakurankai) that institutionalized the collection and public display of material culture as a national endeavor.



「古今珍物集覧」/当館蔵
通期展示

美術品や動植物の標本、
計620点を所狭しと陳列

ウィーン万国博覧会の前夜

—アイヌ・コレクションからみる
博覧会への出品—

江戸の知識人の好奇心趣味としてはじまったアイヌ・コレクションは、ウィーン万国博覧会をきっかけに、北海道や樺太、千島南部など地域性、生活用具の組合せを意識した体系的な収集へと変化していきました。ウィーン万博を起点として、「見せる」ことを意識した「伝統的なアイヌ文化」のパッケージがつくられていきます。

Chapter 3: On the Eve of the Vienna World Exposition
— The Exposition through the Lens of Ainu Collections
Against the backdrop of the Vienna World Exposition, the collection of Ainu artifacts, which had originated as an antiquarian interest among Edo-period intellectuals, was transformed into a more systematic endeavor. This new phase emphasized regional characteristics (such as those of Hokkaido and Sakhalin) and the collection of coherent sets of everyday tools. Starting with the Vienna World Exposition, “traditional Ainu culture” came to be curated and packaged for public display.

制作年代、制作地や
制作者がわかっている
貴重な資料の数々



小刀/東京国立博物館所蔵 Image: TNM Image Archives
前期展示

ウィーン万国博覧会のあと

—樺太千島交換条約とアイヌ・コレクション—

1875年、明治政府とロシアは樺太千島交換条約を調印しました。これにより、両国の間で国境が決められ、そこに居住していたアイヌ民族は劇的な変化を強いられました。国境画定の過程で、アイヌを含む北方民族のコレクションが形成され、博物館などで陳列されていきました。

Chapter 4: After the Vienna World Exposition
— The Treaty of Saint Petersburg and the Ainu Collections
In 1875, Meiji Japan and Russia signed the Treaty of Saint Petersburg, defining the border between the two countries. This event forced dramatic changes upon the Ainu people living in Sakhalin and the Kuril Islands. During the border demarcation process, collections of indigenous artifacts, including the Ainu collections, were created and exhibited in museums and other spaces.



木綿衣(アイヌの志村弥十郎が着用)
東京国立博物館所蔵 Image: TNM Image Archives
前期展示

一口皮舟(模型)(アリユート)
市立函館博物館蔵 前期展示



開拓使が
収集した
北方民族
の
コレクション

物入れ(千島アイヌ)
市立函館博物館蔵
右・前期展示 左・後期展示

国立アイヌ民族博物館 第10回特別展示 開館5周年記念

ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション

AINU COLLECTION AT THE VIENNA WORLD EXPOSITION OF 1873

関連イベント

開館5周年記念講演会

7月5日(土) 10:00~10:45

本展出品協力館である、ベルリン国立博物館群民族学博物館のラース・クリスティアン・コッホ館長とアンリエット・ラヴォー・ヴクレール学芸員による、博物館や所蔵アイヌコレクション等の紹介を行います

◎スペシャルギャラリートーク

10月25日(土) 14:00~14:30

飯田茂雄氏(東京国立博物館 研究員)による展示資料や本展のみどころを紹介します

◎ギャラリートーク

本展担当者が展示室で見どころを解説します

7月6日(日)、19日(土)、21日(月・祝)、27日(日)

8月2日(土)、23日(土)、24日(日)

9月13日(土)、15日(月・祝)、23日(火・祝)、28日(日)

10月5日(日)、13日(月・祝)、18日(土)、26日(日)

11月1日(土)、3日(月・祝)、15日(土)、16日(日)

各日14:00~14:30(※11月3日は10:30~14:00~)

◎バックヤードツアー

博物館の裏側を展示担当者が紹介します

10月4日(土) 14:00~15:00

夏休みイベントウィーク

ウポポイ しようよ!

8月はご家族や親子で一緒に楽しめる
イベントがもりだくさん!

“ウポポイ内でも関連した
いろんなワークショップがいろいろあるよ!”

おしゃべりギャラリートーク

学芸員と一緒に展示室をまわって、
アイヌ文化や博物館の楽しみ方について
学ぼう

8月9日(土)、10日(日)、
11日(月・祝)、13日(水)、14日(木)、
15日(金)、17日(日)

13:30~14:00

はくぶつかんの うらがわツアー

館内をあちこち探検しながら、
学芸員のおしごとを体験してみよう

8月16日(土)
13:30~14:15

トウレツポんのおさんぽ特別版 トーハクくん、ユリノキちゃんが 遊びにきたよ!

東京国立博物館公式キャラクターのトーハクくん、
ユリノキちゃんがトウレツポんとおさんぽするよ。
あいさつをしたり、一緒に写真を撮ったりできるよ

8月15日(金)、16日(土)、17日(日)
14:20~14:40



全てのイベントは参加無料(ただし、ウポポイ入場料が必要)。
くわしくはウェブサイトをご覧ください。

○観覧料 [特別展示観覧料] 無料

※国立アイヌ民族博物館の入館にはウポポイの入場料が必要となります

休館日

月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)

料金

国立アイヌ民族博物館の観覧料は、民族共生象徴空間(ウポポイ)の
入場料金に含まれます。

●民族共生象徴空間(ウポポイ)入場料(税込)

	個人	年間パスポート
大人	1,200円(960円)	2,000円
高校生	600円(480円)	1,000円
中学生以下	無料	

*()は20名以上の団体料金。*障害者とその介護者各1名は無料です。入館の際に証明書等をご提示ください。*入場予約方法や最新の情報は、ウェブサイトからご確認ください。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館は、
民族共生象徴空間(愛称「ウポポイ」)内にあります。

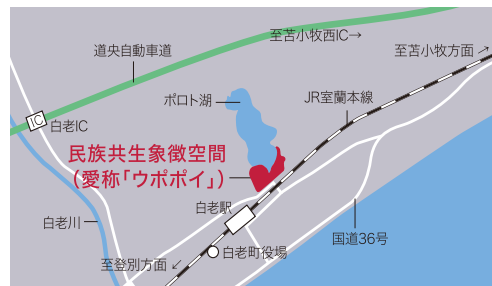
アクセス

札幌から約1時間、新千歳空港から約40分

●乗用車…白老インターから車で約10分

●電車……JR白老駅から徒歩約10分

電車を利用してウポポイへご来園の方は、「白老町交流促進バス」のご利用が便利です。



北海道白老郡白老町若草町2丁目3-1



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

JAPAN
CULTURAL
EXPO 2020

詳しくは国立アイヌ民族博物館のウェブサイトへ

For more information on the special exhibition, please visit our website.

